

日中友好協会 八王子支部 ニュース



みんなで参加・多彩な活動! 広げよう・大きな“わ”! 佐藤副支部長: FAX:042-645-8415

2022. 7.24

日中戦争—兵士は戦場で何を見たのか

2006年放映 NHKビデオ上映とお話(五井信治さん)

事実は雄弁です。
写真で、映像で、あるいは生存者の証言で、日中戦争の事実が次々と明らかになっていきます。



八王子支部の理事である五井信治さんが、2006年9月にNHKで放映されたビデオ「日中戦争—兵士は戦場で何を見たのか」を上映し、資料をもとにお話しをして下さいました。

1937年(昭和12年)

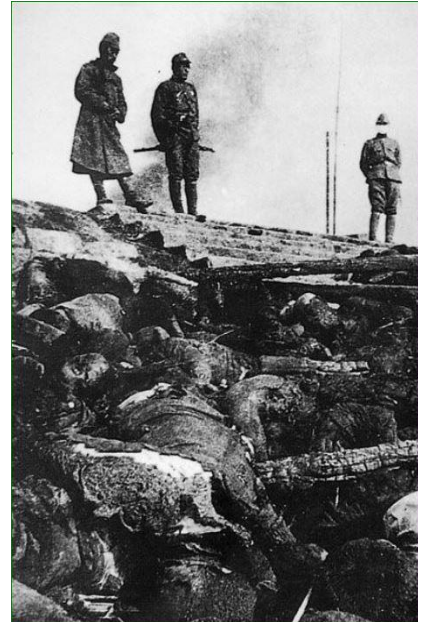
- 7.7 北京郊外の盧溝橋で日中両軍衝突
- 7.28 日本軍、華北で総攻撃開始
- 8.5 首相近衛文麿、中国に対して一打撃を与えるための国民精神総動員を呼びかけ
- 8.13 上海で日中両軍交戦開始(第2次上海事変)
- 8.28 国際連盟総会で日本の中国都市爆撃非難決議を採択
- 10.28 陸軍省、上海戦を制した時には軍事行動を停止し停戦・平和を目指すとする声明案作成
- 11.15 第10軍幕僚会議、独断で追撃戦を行うことを決定
- 12.1 大本営、南京攻略戦を正式に下令
- 12.7 蒋介石、南京脱出
- 12.12 深夜、南京陥落
- 12.13 日本軍「残敵掃蕩」を開始
- 12.17 南京入城式

盧溝橋で事件が起きたのは、1937年7月7日。宣戦布告の無い日中戦争は始まりました。その前に満州事変が起こり、関東軍は「満州国」を宣言していました。やがて対支一撃論が出て、軍部が独走。これを、始めは戦線不拡大を決めていた政府は止めることができませんでした。中国(当時は侮蔑的表現で支那)はすぐ屈服するだろうという予想に反し、抵抗が続きます。

やがて「徴発」という言葉で略奪行為が行われ

戦場は上海から南京へ。その途中で虐殺行為が行われます。

戦場を写した映像には多くの死体が……。思わず目をそむけたいくなる場面です。南京が陥落したのは12月12日。日本国内では昭和天皇が南京占領を喜ぶ「お言葉」、そして戦勝を祝って提灯行列が行われたのです。なんと恐ろしいことでしょう!!死体の山を見てそれでもなお提灯行列ができたのでしょうか。



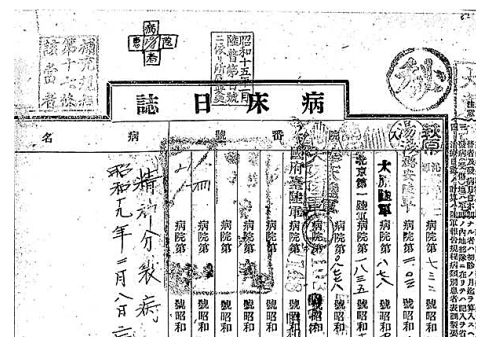
村瀬守保写真集より
1937年12月、南京市内に折り重なる遺体を見下ろす日本兵

そしてこの映像が、ロシアのウクライナ侵攻と重なってきました。21世紀の現在普通に生活している所で爆撃による殺戮行為が行われていること、事実を知らされていない国民がいることに恐ろしさを感じました。

「人」の心はどこへいったのでしょうか。五井さんのお話の中に「病床日誌」の存在があるとの話がありました。戦場病を発症した人たちがいたのです。戦争は「人」の心を奪います。「戦争の始まり」とは政治の失敗であり、殺されるのはいつも弱者なのです。

改めて過去の日本の過ちを学ばなければいけないと思いました。

そして今の危ない動きを許してはならないとも思うので
(加藤 千音)



今から10年前、わが日中友好協会八王子支部の創設者のお一人・高橋秀男氏ご夫妻が、北京に短期留学した。その時の日誌があると聞き、掲載させていただくことにした。

◇ 抗日記念館 “従軍慰安婦写真展” 初の展示

“七・七事変” 発端の地、盧溝橋に続く宛平城壁門をくぐり抜け、城内を貫く中央路・城内街を行くと、中ほど左側に広大な“中国人民抗日戦争記念館”がある。中国人民の抗日戦争終結66周年を記念して今年(2011年)8月14日、この記念館に初めて「日本軍性暴力写真」が展示された。日本軍“従軍慰安婦”問題の展示である。私は展示第1日目に参観した日本人の一人になった。

この日「北京晩報」は、一面中央にこの展示の前に立つ老婦人らの写真を掲載、二面トップで、「当時の被害者・正義のために歴史に向かい合う“訴訟を打ち続けなければならない”」と大見出しでこの写真資料展を詳報した。それによると、この朝、山西孟県から来た受難者の劉面換さんと、南二仆さんの養女・楊秀蓮さんたちが、この写真展示資料の前に立った。南二仆さんは、1967年「日本軍から受けた残虐な被害の後遺症」に耐えかねて自殺。生前、夫に「この子(養女・楊秀蓮)が大きくなったら、私の身の上に起こった不幸を伝えてくれ、出来ることなら私に代わって、拭うことのできないこの辱めと苦しみを雪ぎ、私のため仇を討って・・・」と訴えたという。

80歳を超える劉面換さんは「日本政府は過ちを認めず、謝りもせず、賠償もしない。私達は、必ず訴追し続けなければならないし、この訴訟を止めることはできない!」と強調している。



◇ 城壁に弾痕 麓道に無数の“黒い碑塚”

～宛平城に見る侵略のつめ跡～

中国全面侵略の火蓋を切って盧溝橋から侵攻した日本軍の砲弾痕が、宛平城南面の城壁に残されている。通常の観光ツアーコースから外されていて、ここを訪れる日本人はあまりいないという。永定河にかかる盧溝橋の対面、宛平城城門前を城壁に沿って進み、壁角を左に曲がるとその城壁南面が遙か彼方までつづく。2～3キロはあるだろうか？

日本軍の砲弾の痕はその南壁の中程に、点々と穿たれていて“保存”されている。観光の中国の若者が、プレートの記録文字に見入っていた。



この城壁の麓、道路に沿う草むらに黒い異様なものが頭を並べている。“碑塚”とでもいうのか？この一つ一つに文字が刻まれていて、“日本軍が侵攻してきて、どこそこの村で、70人余りの子どもが・・・、堂内の老幼を・・・、婦人を輪姦・・・、あるものは腹をえぐり、あるものは頭を・・・”といった日本軍暴虐の数々が記されている！無数といってよい。その一つ一つに。同じ文面は一つとしてない、と思われる。その数とその記録の一つでも完全に写し取らなかったことが、本当に悔やまれる。できれば、その総てを数え、その総てを書き写し取るべきでないか。この“碑塚”を何というのか？どなたかご存知の方はぜひ教えて戴きたい。北京に“遊学”しながら“心有余而力不足”、臆して中国の方々にも尋ねてもみなかったことが、今更ながら慙愧の極み、遺憾千万というべきか。吾老いたりというべきか！

(完)



曹操



曹操は、兵法の達人といわれているが、生涯で最も手痛い敗戦の一つとなった。

虎牢関の戦いに勝利を収めた連合軍は、宴をあげていたが、ここで、失踪していた孫堅が激しい殺気とともに現れる。孫堅は、袁紹から兵糧の支給を受けられずに敗走していたからである。そもそも孫堅は、董卓に恨みがあるわけではなく、袁紹らが発した檄に応じ、上は国家のため、下は百姓のためを思っ立ち上がったにもかかわらず食糧の配給を受けられずに敗走したのであるから、その怒りはもつともである。袁紹は、部下に責任を転嫁し、自身は知らなかったと言いつ張り、その部下を手討にし、孫堅の怒りを鎮めたのである。ところで、董卓は、連合軍の勢いから逃れるため、配下の進言に応じ、洛陽を捨て長安に遷都することを決めた。その際、貴族豪族らの財産を没収し、また、都に火を放ち、洛陽を廃墟としてしまった。この際、呂布は、歴代の皇帝の墓を暴き、埋葬品を押し、長安にこれを輸送した。洛陽が火の海となると連合軍も洛陽に入城し、董卓軍の敗残兵を討伐する。ここで曹操は董卓に追っ手を仕向けるべきだと進言するが、袁紹は兵を休養させることが先決であると追っ手を向けることに否定的であった。そこで、曹操は、自身の兵を引き連れ、追っ手に向かう。

山越拓児さんの世相を映す替え歌⑪

「勝手に決めるな」～沢田研二「勝手にしやがれ」



♪アベシンゾー銃撃されて犠牲になったこと やっぱり暴力許しはしない

すばらしい総理だったと キンダはほめたたえ 改憲突き進む 気配がしてる

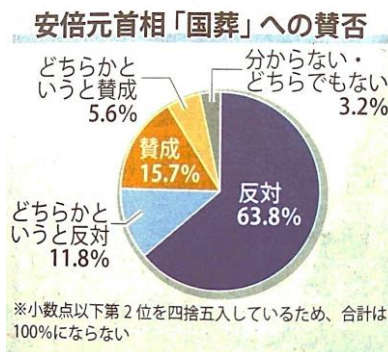
悼む気持ちはそれぞれ自由でいい 葬儀するなら自民でやれよ 法的根拠も曖昧なままにして 勝手に決めるなよ アベ国葬を

♪税金でまかなう葬儀 日本武道館 キンダが閣議で 決定したの

国葬というのにみんな 違和感覚えてる あばよとサラリと 送ればいいの

アベの政治で苦しめられた人がいる 政治私物化 立憲主義破壊 統一協会との関係隠して 勝手に決めるなよ アベ国葬を

アベの政治を派手に礼賛して 勝手に決めるなよ アベ国葬を



2022 7. 28 長崎新聞より

第18回定期総会に思う 佐藤一義 「人こそが資源」(日中の名簿を見て)

- ① 連携→ 個々のイベントの担当者と参加者の強い絆で維持管理 (運営のスムーズ)
② 連帯→ 各々のイベントの参加者が複合的な協体制で継続 (情報のスムーズ)
③ 連合→ 支部ニュース、チラシ、折り込み等で他団体との関係確立 (交流のスムーズ)

【集合体】 ○各々の担当者が長期に渡る“強靱な精神力”を持って継続可能にした図式がみられる。 ○信念を持って行動することにより信頼を勝ち取り、信用へと相互共存で結束力が強まった集合体が作られた。

8月は総会。「新規年度は会員を増やそう」を目標へ。落ち込んではいられない。支部のパワーが満ちているので、クリア可能です。「諸志貫徹」のため“根気よく”“妥協せず”“あきらめず”前進あるのみ!

軍拡より攻められない外交を！

今こそ9条を世界に！

だれも憲法変えるの望んでない！

敵基地攻撃(反撃能力)は戦争をしかけること！

核兵器禁止条約に日本も参加しよう！

第85回

NO WAR! 八王子アクション

8月20日(土)

10時30分～11時30分 JR 八王子駅 北口 集会

日中友好協会八王子支部
第18回定期総会

8月28日(日) 13:00～13:45
アミダステーション(2階)

創立17周年記念八王子フェスタ
14:00～16:00

中国語・太極拳・二胡教室等各講座発表
&馬頭琴奏者による演奏(ホーミーも)

私の本棚 鹿島昭二

○寄稿いただく場合の送り先； 松澤 正人
e-mail: erhudeniko@gmail.com FAX: 042 (664) 1642

寄稿第1弾。戦争をテーマにした本の紹介からスタートした本欄に、鹿島さんから下記の4冊の紹介を頂きました。

●『**戦場体験を受け継ぐということ**』 遠藤美幸著 高文研 2000円ぐらい
客室乗務員の女性が退職後、戦争の悲惨さを後世に残したいという一心から、当時の一般兵士や中隊長や、参謀本部員などから、直接又は各クラス戦友会などに同席して聞き書きしたもの。戦闘場所はビルマ(現ミャンマー)から中国昆明に通ずる援蔣ルート上で、怒江が直交して接する辺り。これは『断作戦』(ビルマルートを遮断する)ともいわれ、孤立したため弾薬、食料が無くなり、空中投下作戦に頼ったが、その投下物の回収には慰安婦も壕から出てきたという事も書かれてある。最後は日本軍の全滅である。聞き書きしている様子も書かれてあるので面白い。必読書と思う。

●『**天山を越えて**』 胡桃沢耕史著 光文社文庫 880円(税別)
戦時中から戦後のかけての戦時冒険小説で、小松左京がこの世界に引き込まれたと言っているそうだ。兎に角面白い。一晩で読まされてしまう。場所が天山山脈、タクラマカン砂漠、カラコルム山脈と雄大である。その上戦後のアメリカの機関まで関係する。これがたまらない。

●『**日本列島100万年史**』 山崎春雄 久保純子 共著 講談社(ブルーバックス) 1000円(税別)
私は地学も好きだが、これはNHK土曜日七時三十分からのブラタモリを見てる人にとっては好適と思われる。日本列島の出来方から書いてあり、各地域毎に特徴が記載され読み易い。

●『**後期日中戦争**』 広中一成著 角川新書 920円(税別)
日中戦争の後期の作戦の四年間ぐらいについては戦中派の私でさえ余りよく知らない。しかし実際は4～10万人ぐらい出動の作戦は4～5回ぐらいあったという。中でも『大陸打通作戦』という将兵50万人ぐらいを動員する大規模の作戦もあった。輸送船による南方との物資の交流が出来なくなったので、中国大陸の鉄道(釜山 北京 長沙 南寧-ハノイ)を通して日本からシンガポールまでを占領統治しながら輸送路を確保するための作戦だ。これはインパール作戦の二の舞になる所で作戦を終えたのであまり知られていなかった。
いずれの作戦も、制空権が中国側にあるまま兵器、弾薬、兵員、食料等が不足のもとで行われた。食料は現地調達だったので、如何に中国の民衆を痛み付けたかが忍ばれる。



《**日中友好協会八王子支部日程**》

8月21日(日) 10:00～理事会	9月25日(日) 10:00～理事会
8月28日(日) 13:00～日中八王子支部総会	13:30～映画会「宋家の三姉妹」
14:30～八王子フェスタ(支部発表会)	10月23日(日) 聊聊天会「芥川龍之介と中国」
	11月27日(日) 切り絵教室「干支の兎を切る」

日中友好新聞は、東北アジアの平和に役立つ確かな情報と中国の文化・歴史の豊かな情報を持つ、月2回発行のタブロイド判8Pの新聞です。嫌・反中報道が溢れる中、公正・中立な報道をしています。ぜひご購入下さい。

1ヶ月550円(送料込み) 購読申込 042-645-8411 佐藤